

## 実地視察大学の概要

○課程認定を受けている学科等の概要

大学名		川村学園女子大学		設置者名		学校法人 川村学園			
学部・学科等の名称等			認定を受けている免許状の種類・認定年度		免許状取得状況・就職状況 (平成25年度)				
学部	学科等	入学定員	免許状の種類	認定年度	卒業者数	免許状取得者数		教員就職者数	
						実数	個別		
文学部	国際英語学科	50人	中一種免(英語) 高一種免(英語)	平成12年度 平成12年度	31人	4人	4人 4人	1人	
	史学科	50人	中一種免(社会) 高一種免(地理歴史)	平成12年度 平成12年度	45人	5人	3人 5人	0人	
	心理学科	70人	高一種免(公民)	平成12年度	39人	1人	1人	0人	
	日本文化学科	50人	中一種免(国語) 高一種免(国語)	平成23年度 平成23年度	—	—	—	—	
教育学部	幼児教育学科	80人	幼一種免	平成12年度	86人	76人	76人	45人	
	児童教育学科	40人	小一種免	平成20年度	21人	21人	21人	15人	
	社会教育学科	40人	中一種免(社会) 高一種免(公民)	平成12年度 平成12年度	17人	2人	2人 0人	0人	
生活創造学部	生活文化学科	80人	中一種免(社会) 高一種免(公民)	平成23年度 平成23年度	—	—	—	—	
			栄教二種免	平成23年度	—	—	—	—	
	観光文化学科	40人	中一種免(社会) 高一種免(地理歴史)	平成23年度 平成23年度	—	—	—	—	
			高一種免(公民)	平成23年度	—	—	—	—	
人間文化学部	日本文化学科	—	中一種免(国語) 高一種免(国語)	平成12年度 平成12年度	33人	8人	6人 8人	0人	
			中一種免(社会) 高一種免(公民)	平成12年度 平成12年度			0人 0人		
			中一種免(社会) 高一種免(地理歴史)	平成12年度 平成12年度			2人 2人		
			高一種免(公民)	平成12年度			1人		
	観光文化学科	—	中一種免(社会) 高一種免(公民)	平成17年度 平成17年度	47人	1人	1人 1人	0人	
			高一種免(公民) 栄教二種免	平成17年度 平成17年度			1人 1人		
	生活文化学科	—	—	—	—	—	—	—	
入学定員合計		500人	合計		335人	120人	138人	61人	

大学名		川村学園女子大学(大学院)		設置者名		学校法人 川村学園			
研究科・専攻等の名称等			認定を受けている免許状の種類・認定年度		免許状取得状況・就職状況 (平成25年度)				
研究科	専攻等	入学定員	免許状の種類	認定年度	卒業者数	免許状取得者数		教員就職者数	
						実数	個別		
人文科学研究科	心理学専攻	10人	高専免(公民)	平成11年度	10人	0人	0人	0人	
	教育学専攻	5人	中専免(社会) 高専免(公民)	平成23年度 平成23年度	0人	0人	0人 0人	0人	
			中専免(英語) 高専免(英語)	平成16年度 平成16年度	0人	0人	0人 0人	0人	
	比較文化専攻	5人	中専免(社会) 高専免(地理歴史)	平成16年度 平成16年度	0人	0人	0人 0人	0人	
			—	—	—	—	—	—	
	入学定員合計		20人	合計		10人	0人	0人	0人
備考	<p>・「学部・学科等の名称等」欄は、平成26年4月1日現在の名称・定員である。</p> <p>・「免許状取得者数」欄の「実数」欄は各学科等の実人数、「個別」欄は各学科等内の教職課程ごとの人数である。</p>								

## 教職課程実地視察大学に対する講評

実地視察日：平成26年11月6日（木）

実地視察大学：川村学園女子大学

実地視察委員：宮崎英憲委員、関戸英紀委員

## 【全般的事項】

- 教員養成に関する教育課程及び教員組織等については、おおむね問題なく実施されている。
- 教育課程について「2.」で指摘するように、教育職員免許法施行規則及び教職課程認定基準等の観点からは是正すべき点を確認されたため、その点については、速やかに是正すること。

## 【個別事項】

## 1. 教職課程の実施・指導体制（全学組織等）

- 「高度の専門性を備えた実践的指導力のある教員の養成」という教員養成に対する理念・構想を示しているが、それを具現化するための教職課程に対する全学的な組織、教育課程及び教員組織をより一層充実させるように努めていただきたい。各学科間の連携をいっそう進めていただくと同時に各学科の関与を強めていただきたい。

## 2. 教育課程（教職に関する科目及び教科に関する科目）、履修方法及びシラバスの状況

- 教職教養演習など、様々な特色のある取組が行われていることが確認された。今後は教職課程委員会と各学科が協力し、それらを一層充実させられるよう努めていただきたい。
- 各学年の配置状況、その他学生の将来を見据えた履修方法のしくみが整えられているので、今後さらに整備を進めていただきたい。
- 「教職に関する科目」について、教育職員免許法施行規則第6条第1項表に定める「各科目に含めることが必要な事項」が含まれているか否かがシラバスからは判断できない授業科目や、科目の趣旨に照らして適切でないと見受けられる授業科目がある。法令で扱うこととしている内容は必ず扱うとともに、科目の趣旨に照らして適切な授業内容となるように、内容を再度検討すること。なお、シラバスの記載内容及び記載方針を定め、法令に定める「各科目に含めることが必要な事項」が取り扱われているかどうかをシラバスの授業計画から確認できるようにすること。
- 文学部、教育学部、生活創造学部の中一種免（社会）について、教職に関する科目のうち、各教科の指導法の開設が4単位のみであるため、中一種免（社会）に関する指導法の科目を4単位分開設すること。なお、高等学校の内容に特化して

いる授業があり、中一種免（社会）の科目としては不適當なものがあるため、授業内容を見直すこと。

- 幼児教育学科の「保育内容の指導法」については選択必修となっているが、5領域（健康、人間関係、環境、言葉、表現）を履修することが必須であるため、履修方法を見直すこと。
- 栄養に係る教育に関する科目と教科又は教職に関する科目（小）の両方に配置されている科目があるため、修正すること。
- 人文科学研究科心理学専攻の科目については、臨床心理に特化しており、高等学校（公民）に関する心理学がなく、養成の目的が不明である。教職課程の在り方を見直すこと。
- 生活創造学部観光文化学科の高一種免（地理歴史）と高一種免（公民）において、重複している専任教員がいるため、速やかに是正すること。

### 3. 教育実習の取組状況

- 児童教育学科に関しては、我孫子市との連携を整備されており、母校実習ではない仕組みが整えられていることが確認された。中学校及び高等学校の教職課程に関しても同様の仕組みが整備されつつあるので、さらなる充実に努めていただきたい。
- 今後、さらに地元教育委員会や学校との連携を進め、近隣の学校における実習先の確保に努めていただきたい。なお、やむを得ず遠隔地の学校や学生の母校において実習を行う場合に、実習先の学校と連携し、大学が教育実習に関わる体制を構築するとともに、学生への適切な指導、公正な評価となるよう努めていただきたい。

### 4. 学生への教職指導の取組状況及び体制

- 実習の受講資格などを厳格に設定しており、学生への教職指導に力を入れていることが見受けられた。ただし、教職志望の学生が減少しないよう、早期からの履修相談などの学生支援に努めていただきたい。
- 教職を目指す学生全員に対して一定水準以上の教職指導が実施されるように、体系的かつ組織的に指導していくための体制をご検討いただきたい。

### 5. 教育委員会等の関係機関との連携・協働状況（学校現場体験・学校支援ボランティア活動等の取組状況）

- ボランティアについては単位化をする動きもあり、その際は巡回指導を行う方向であることも確認された。巡回のポイント、評価の観点等、学内で議論を深め、教育委員会との連携を進められるよう努めていただきたい。

6. 施設・設備（図書を含む。）の状況

- 教職関連図書・雑誌については、図書館と学科の共同研究室それぞれが充実しており、学生のために十分な配慮がなされていることが確認された。教職を志す学生が、教育に関する最新の情報を入手することができるように、引き続き図書環境の充実に努めていただきたい。
- その他施設については、整備・充実している状況が確認された。

7. その他特記事項

- 基礎ゼミ以外でも、初年次教育において学習支援を行える仕組みを考えていただきたい。